

消防団たずね歩き「消防団員としての歩み」

灘消防団は六甲山エリアを含め8分団で構成しています。第3分団は、主に灘区の中心部の北側地域を管轄として活動しています。

【入団のきっかけ】

私は、灘消防団第3分団に2003年11月に入団しました。当時は神戸市交通局の職員でしたが、現在は神戸市水道局に勤めています。入団の経緯は同僚の先輩職員から数回にわたり「消防団入れ、入れ」との誘い文句でした。初めは笑ってごまかし、かわしていたのですが…思い起こすと自分自身、阪神淡路大震災を経験しており震災直後の事が脳裏に浮かびました。当時ダメージの大きかったJR六甲道駅の南側の桜口町に住居があり建物自体は難を逃れ夫婦共に無事だったのですが、辺りは火災が発生し、倒壊家屋が多くすぐさま、人命救助にあたりました。消防車、救急車や警察も来ず悔しい思いや悲しい場面を見たのも事実です。そのような中でできる事をやろうと無我夢中でご近所の方と力を合わせ建物の下敷きになった人を助けだす、又は安否確認をするなど使命感を持った事を覚えています。「人は一人では限界があり何もできない。みんなで力を合わせれば成し遂げられる事がある。」そういう気持ちを思い出し入団を決意しました。

【消防団ポンプ操法大会について】

過去に2度選手として、出場する機会があり、猛練習の日々を過ごす事となりました。努力は必ず報われると言いますが、満足のいく結果を残すことができました。いずれの大会も努力した分、終わった時は泣けました。勿論、成績も大事ですが何より切磋琢磨し協力しあい成し遂げる事に意味があると感じました。署の方や団の方の支えがあり目標に向かって進む、繋がりや絆を大切にする、その事実が全ての活動に通ずると思います。つくづく消防団員になって良かったなと痛感しています。

【おわりに】

令和5年度に入り新型コロナウイルス感染症が5類に移行され従来どおりの活動が可能となり大変嬉しく思っています。全国的な課題ですが、現在の灘消防団も高齢化が進んでいます。新団員の加入もありますが、まだまだ平均年齢は高いです。今後若い世代の団員が増えるよう尽力し、灘消防団の益々の発展に貢献できるよう向上心を持って努めていきたいと思えます。

(灘消防団 第3分団 副分団長 早渡秀喜)



(使役として随行)